

## 比較文化研究

Studies in Comparative Culture

No. 140

## 目次

(論文)	
日本語テキストマイニング技術の応用可能性 ——台湾における日本語教育の次のステージを求めて——	落合 由治
Tracing the Similarities in Coleridge's and Tōkoku's Conceptions of Nature 「リトルロックの省察」と日本の外国人児童生徒	野中美賀子
パール・バック『隠れた花』論——混血児へのまなざし——	奴久妻駿介
日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」の語用論的機能について 『グラン・トリノ』の言語と構造——コーパス言語学の視座から——	野田 晃生
司法通訳人が考える通訳の意味——司法通訳人に対する調査からの考察——	李 鳳
Tracking Byron's Image Mainly through <i>Childe Harold's Pilgrimage</i> 『ある婦人の肖像』とベラスケス「王女マルガリータ」	深津 勇仁
——ヘンリー・ジェームズとスペイン——	水野かほる
韓国における自立生活理念の形成過程の一考察 ——障害者自立生活センター協議会と障害者自立生活センター総連合会の主張を中心に——	山口 裕美
カント倫理学における自由と強制——意欲の分析性と命法の正当性根拠——	砂川 典子
カトリック作家J・R・Rトルキンの描く戦争	吳 允熙・岡 典子
夏目漱石の『坊っちゃん』に見る2つのコミュニケーション方略の相違とすれ違い ——木下の説(2019)とハーバーマスの理論の対比に基づく考察——	福田 俊章
AIのデータマイニング技術による日本原発文学研究への支援 ——『それでも三月は、また』を例にして——	鳥居 佳江
日影丈吉「猫の泉」論——摂取の関係を兼ねて——	木下 哲生
越境学習としてのインターンシップの教育効果 ——正統的周辺参加論からみた越境学習の葛藤と学び——	曾 秋桂
『或る女』におけるアンビバレントな葉子像——石坂養平宛書簡を手掛かりとして——	黄 如萍
松下漢文法とブルームフィールドのアメリカ構造主義	董 莊敬
川端康成「人間の足音」論——魂の片足を喪失する人間——	盧 昱安
『さようならコロンバス』の真意について：主人公ニールの視点から	王 娟・曲 志強
ズィヤ・ギョカルプにおける「文化」と「文明」の相互関係 ——両者の異質性と連続性をめぐって——	郭 春燕
外国人介護士のキャリア志向についての一考察 ——職業としての介護士を目指すプロセスについて——	高橋 強
漱石の死をめぐる夏目家の死生観	横井 敏秀
ビジネス場面の誤解に基づく非難に対する言語行動 ——中国人日本語学習者の「説明」の表現形式に着目して——	奈良 玲子
高齢者の社会的孤立：日本の静岡市と韓国の東豆川市のヒアリング調査を通して Representation of Impaired Vision in Edgar Allan Poe's "The Spectacles"	中野 優子
植民地朝鮮におけるメディアと日本音楽 ——1920年代の京城放送局(JODK)音楽プログラムを手掛かりに——	末田美香子
ヴァルター・ベンヤミン「ボードレールにおける第二帝政期のパリ」(1938)	金 慶姫
——近代の主人公、神話への抵抗、言葉の戦闘——	秋好 礼子
初等国語と初等英語のゲシュタルト的效果を目指して ——東アジア諸国の先進的初等英語教育導入を参考にして——	金 志善
	平井 克尚
	山下 明昭

2020年7月31日

日本比較文化学会

The Japan Association of Comparative Culture